

2016年3月28日

## 平成27年度 物理情報専修 学位授与式式辞

専修主任 足立修一

大学院修士課程修了、大変おめでとうございます。  
物理情報専修を代表して、ご挨拶させていただきます。

ここにいるほとんどの卒業生は物理情報工学科から進学された方なので、堅苦しいお話ではなく、みなさんとの思い出からお話を始めたいと思います。

みなさんは物情のカリキュラム改革後の最初の学生でした。2年生の秋学期「物理情報数学C」という新設された科目を私一人で担当し、このお隣の32番教室で、水曜日の2限に講義しました。ピアノがおいてあり、黒板の一部が五線譜の不思議な部屋でした。階段教室の前半分に女子学生がたくさん座っていたことなどをよく覚えています。

3年生に進級し矢上に来ると、春学期には必修科目の「制御工学」でみなさん全員と再会しました。さらに秋学期には「物情演習」という科目も新設され、そこでも私は制御工学を担当しました。これは試験形式の授業で、その試験の過去問もなく、苦勞された方も多かつたかもしれません。物情カリキュラム改革の仕掛人の一人として、みなさんにはいろいろ負荷をかけてしまいましたが、このことによってみなさんの基礎力が強化されたと、私は信じています。

みなさんが3、4年生のとき、私は物理情報工学科の主任も務めていたので、みなさんと接する機会が比較的多かつたような気がします。研究室配属説明会の後の3年生懇親会をあのきたない生協食堂の1階で行ったことをよく覚えています。個性豊かな、優秀な学生が数多くそろっていたというのが、みなさんの代の印象です。そのため、カリキュラムが新しくなっても、みなさんはその変化にしっかりと追従できたのだと思います。

学部を卒業後、みなさんは大学院に進学されました。就職した人、海外の大学に留学した人、他大学院に進学した人、みなさんの同級生の進路はさまざまでした。そのなかで、私はUC San Diegoで制御の研究をしているA君、東大航空で頑張っているB君、SDMに進学したC君などとは、いまでも会う機会があり、大変誇らしく思います。

もちろんみなさんも慶応大学院でしっかりと研究を続けました。しかし、みなさんはいつも変化という嵐の中に立たされていました。就活解禁が8月に延長されたのです。この経団連の判断は、われわれ理系をはじめ、文系でも、改悪であったと言ってよいでしょう。

その証拠に、今年の就活解禁は6月に変更されました。まさに「朝令暮改」です。

しかし、みなさんは慶応大学院で実力をしっかりと蓄えていました。企業の間人も、学生もどうしたらよいかまったくわからない混沌とした就活も乗り切り、そして、立派な修士論文を書き、今日の良き日を迎えることができました。みなさんと初めてお会いしてから5年が経ったこととなります。本当におめでとうございます。

今日みなさんにお伝えしたいことが一つだけあります。

それは、若いうちに、できるだけ幅広い分野の人と、ネット上ではなく「生」で会って、知り合いになってほしいということです。それが30年後には大きな財産になります。

いまから30年前、制御しか研究してこなかった私に「宇宙」の研究会に入るチャンスがありました。そこで知り合ったのが、当時東大航空の博士課程学生の中須賀真一さんでした。彼はいま東大航空宇宙工学科の教授であり、日本の宇宙政策を取りまとめる重要人物です。そんな偉い人とも若いころに知り合っていたおかげで、e-mail1本で慶應にきてセミナーをしてもらうこともできます。

残念ながら、慶應では理工学部生は矢上という人里離れたところに隔離されています。多様な人と巡り合うことがちょっと難しい環境です。そこで、私が10数年前に滞在した英国のケンブリッジ大学の例を紹介しましょう。

ケンブリッジ大学では、工学部や医学部、法学部といった学部組織と、もう一つ Kings college や Trinity college といった college の組織があります。College とは寄宿舎をイメージされるとよいでしょう。ですから、ケンブリッジ大学の受験生は、学部とコレッジの両方に願書を提出しなければなりません。私は、工学部と Caius college (1348年設立) に属していました。ホーキング博士もこの Caius college のメンバーです。コレッジには、工学部だけでなく、さまざまな学部の学生と教員が所属しています。そして、学期中はコレッジのダイニングルームで教員と学生と一緒に夕食を取ります。ハリーポッターを見たことがある人だった、あの映画の食事風景をイメージしてください。先生たちは前のテーブルに座ります。このテーブルは「ハイテーブル」と呼ばれ、教員とそのゲストしか座ることが許されていません。幸いなことに、私は2回だけ座ったことがありますが、なかなか貴重な体験でした。教授たちは食後、別室でお酒を飲みながら、深夜まで議論をします。この議論の内容と言ったら、宗教、経済の話から、シェイクスピア、ウィンブルドンテニスの話、さらには動物実験の是非についてなど、多種多様にわたります。日本語であっても

このような議論ができない私がこの会話に加わることは非常に大変でした。しかし、このような環境にいれば、自然といろいろな分野の多様な考え方に接することができるのです。

みなさん、社会に出たら、会社だけでなく、いろいろな分野の人と現実社会で知り合う機会を見つけて、活動範囲を広げてください。そして、実際に会ってお話することにより、ネット上の文字列や絵文字だけの会話ではなく、表情や熱意、怒りなどといった非言語 (non-verbal) 情報を含んだ総合的な人と人とのコミュニケーションをしてください。この face-to-face のコミュニケーションで相手のことがしっかりと「システム同定」できたら、あとは、e-mail でも LINE でもなんでも OK です。なぜならば、みなさんの頭の中にはしっかりと相手の「モデル」が構築されているからです。高精度なモデルがあれば、カルマンフィルタを使って相手の状態を推定することも、場合によっては相手を制御することもできます。これは、私が担当している制御理論の成果なのです。

さて、ほとんどの人は、4月から社会人になります。今日は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、そして大学院と続いた学生生活が終わる本当の意味での卒業式なのです。学部の卒業式とはまた違った感覚だと思います。おそらくここにいる大部分の卒業生と、私が会うのは今日が最後かもしれません。一期一会です。5年間のお付き合いでしたが、みなさんと出会うことができ本当に楽しかったです。これまでの付き合いを大切に、そして、これから先の素敵な出会いを楽しみにしてください。

学部の卒業式のときも言いましたが、最後に、もう一度繰り返します。  
慶應義塾を選んでよかった、物情を選んでよかった、所属した研究室でよかった、と思っ  
て、社会に巣立っていってくれたら、それはわれわれ物情教員にとって最大の喜びです。

本日はご卒業、誠におめでとうございました!!!